

## 第1回平群町第6次総合計画等検討委員会 会議録

【日時】令和4年3月29日（火） 9:30～11:30

【出席者】13名

【欠席者】0名

【事務局】政策推進課：5名、コンサル（ランドブレイン）：2名

### 1. 開会

### 2. 町長挨拶

西脇町長： 本日はお忙しい中、また年度末にも関わらずご出席いただいたことについて御礼を申し上げます。また、日頃より本町のまちづくりにご支援・ご協力いただき委員就任にご快諾をいただいたことについても御礼を申し上げます。

本検討委員会は1月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で度重なる予定変更により、皆様にはご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。未だ予断を許さない状況であるものの、感染者が減少傾向にあることから、感染対策を行ったうえで開催を行う運びとなった。

平群町では、令和5年度を初年度とする第6次総合計画の策定に向けて取り組んでいる。総合計画とは、今後10年のまちづくりの在り方を決める重要な計画である。住民の皆様の思いやご意見を聞きながらともに作り上げることが大切だと思っており、アンケート調査やまちづくり会議ワークショップの実施など住民のご意見の把握に努めてきた。検討委員会では、各分野でご活躍の委員のみなさまからそれぞれの視点で、本町のまちづくりの評価や今後への期待など率直なご意見をいただき、町の将来をともに作り上げたいと思っている。

### 3. 委嘱状の交付

### 4. 委員紹介

### 5. 平群町第6次総合計画等検討委員会について（資料2）

事務局：（資料説明）

## 6 会長、副会長の選出について

事務局案として会長に中山徹委員、会長代理に種坂英次委員を提案し、全会一致で就任いただく運びとなった。

中山会長： 総合計画は町の今後を決める、きわめて重要な計画である。地方自治法の改正により、総合計画の策定は義務ではなくなったが、ほとんどの自治体が施策を位置付ける計画として策定を行っている。皆様のこれからの審議とご意見が平群町の今後 10 年の在り方に大きな影響をもたらすと思う。忌憚のないご意見を出していただき、より良い総合計画が作られることを願っている。

## 7 議事及び報告事項

①平群町第6次総合計画等策定方針（案）について（資料3）

②計画策定の体制について（資料3）

③策定スケジュールについて（資料3）

事務局：（資料説明）

小坂委員： 第5次総合計画の達成状況についてお聞きしたい。

事務局： 中間見直しについては実施できなかったが、検証委員会及び推進連絡協議会は実施しており、常に実施状況を図ってきた。各課においても、毎月の課長会議により第5次総合計画と照らし合わせた業務の進捗確認は随時行った。

第5次総合計画から、各事業の進捗状況を点数制としている。今回の施策動向については個々に達成状況が異なるため、各課ヒアリングを行い状況確認してきた。達成できたモノもできなかったモノもあったが、次期計画でどのように取り扱うかも含め、後ほど説明させていただく。

中山会長： 各課の施策動向については、資料5で詳しく説明されるかと思う。

岡委員： 第5次総合計画の中間見直しはなぜできなかったのか。私自身は第5次総合計画の策定にも関わっており、検証委員会の委員になろうとも思っていたが、開催された記憶がない。

計画は策定して終わりではなく、策定がスタートであるという意識を持ち、チェック体制を整備して、第6次は見直しの漏れがないように努めていただきたい。

事務局： 第5次総合計画の中間見直しができなかったことについては反省すべき点だと認識している。検証委員会については年に1～2回、推進連絡協議会は3か月に1回ほど開催していた時期もあった。

反省を踏まえ、第6次総合計画では取組状況の精査と把握ができる体制を整える所存である。

中山会長：資料3は抽象的なことも多いが、皆様には2ページ目の基本的な考え方をもとに出てくる基本構想や基本計画についてご意見いただきたい。

基本構想については次回議論するのか。

事務局：現在、アンケート調査や住民まちづくりワークショップを実施しとりまとめを行い、町の課題が一定見えている状況である。これを踏まえ、今回は骨子案の提示を行う。

中山会長：次回の基本構想からある程度は具体的な内容になると思うが、3,4回目以降の議題となる基本計画の方が皆様からご意見を出していただきやすいかと思う。

形式的な話だが、検討委員会とは町長から諮問があり、一年間議論を行い、答申を提出するというになっている。諮問がないと答申が書けないため、次回提出をお願いしたい。

#### ④各種基礎調査について（資料4）

事務局：（資料説明）

竹内委員：平群町には賃貸住宅が少ないとあったが、空き家は比較的多い。トライアルのように一年間低額で暮らしを体験してもらうのはどうか。

また、高齢化社会は他の地域でも例外ではなく、自身が以前住んでいた大和高田市では多世代交流拠点を作っている。高齢者がスタッフとなり、子育て世代とのイベントでは好評を得ている。平群町にも多世代交流拠点を作れば、住民参画が促進されるのではないか。

事務局：町でも来年度に人口対策を行う部署ができる。空き家活用検討のご意見として拝受する。

小坂委員：子育て世帯への支援はありがたいが、そもそもこども園の受け入れ体制が整わないと居住は難しい。今年度も0歳児の受け入れ体制ができていないが、これだと安心して働けない。こども園以外に無認可の託児所などが無いことも課題だと思う。

事務局：待機児童対策は重要な施策として捉え、今後も検討を行う。

小坂委員：働く世代としては喫緊の課題なので、先のことと捉えず、早急に解決すべき課題として対応いただきたい。

事務局：保育教諭の雇用という面から待機児童の解消の取組を行っている。今後も待機児童の解消に向けて取組を行う。

小坂委員：平群町では、ファミサポや託児所の認可などは充実しているのか。

事務局：ファミサポ（ファミリーサポートセンター事業）とは、支援を行う会員と受ける会員が存在し、支援を受ける会員が費用を支払い、支援を行う会員が有償にて行う子育ての助け合いの制度である。なお、ファミサポと類似の平群町子育てサポートクラブ事業を子育て支援センターで実施検討していると記憶している。

小規模保育・家庭的保育については、事業者あつてのことだが、実施している三郷町など参考にしながら検討していく必要があるかもしれない。

山田委員：20年ほど前からファミサポのようなものがあればいいということで、過去にボランティアが立ち上げられたことがある。有償にしたいという思いもあったが、保険の問題等で行政とのすり合わせがうまくいかなかった。町の強みとして子育てを強みにする以上、いろいろな組織がある中で連携を図っていただきたい。協働とよく言うが、保険面でのサポートなどボランティアを応援するような施策を考えていただきたい。

中山会長：基本計画の参考となるような意見が多く出たと思うので、事務局にはぜひ参考にさせていただければと思う。

現在は人口が減少傾向にある一方で、世帯数は増えているが、第6次総合計画の期間中にマイナスに転じる可能性が高いと思う。すると、空き家が急速に増える危険性がある。3区分人口については、第6次総合計画期間中に老年人口が40%を超え、生産年齢人口が50%を下回り、年少人口は10%を下回るという状況も予想される。

また、次の5年で団塊の世代が後期高齢者になり、介護を必要とする高齢者が増加することが予想される。後期高齢者が住み続けられる町になることが必要かと思う。さらに、グラフから30～40代が減少していることが見て取れるので、子育てしやすい・女性が働き続けやすいまちを実現しなければ、さらに子どもが減少し、町の将来も大変になる。

このようなことから、第6次総合計画は大きな変化がおこる特徴的な時期になるという印象を受けた。

人口問題の話が出たので、昨今のコロナの状況も含め、平群町内の事業者はどのような状況かを聞きたいので、商工会の米田委員のご意見をお聞きしたい。

米田委員：商工会としては現在、コロナの影響であまり会合ができていないが、高齢化が進み後継者がいないということで、3～4年後には事業の継続が厳しくなることが予想される。廃業していく人が増えることを、なんとか食い止めたいと考えている。自分の周りでも若者は都市部に出て行ってしまっていると感じる。

中山会長：「住みやすい」とは居住環境だけではなく、地域で働く場所があるかどうかも重要である。大阪へのアクセスだけではない。高齢者や女性が地域で安定的に働けるように地域をつくるのが大切かと思う。商工業についてきちんと考える必要がある。

竹内委員：後継者がいないということで、将来的には誰かが新しく会社を立ち上げる必要がある。コワーキング施設のようなところで起業者にチャンスを与えれば良いと思う。それに空き家を利用することも良いのではないか。

事務局：町としても人口対策は重要な課題ということで、4月から人口対策に特化した「まち未来推進室」の開設を行い、今後も取り組みを進める。

#### ⑤第5次総合計画の施策動向調査について（資料5）

事務局：（資料説明）

松名委員：発信力が何より足りない。数日前に奈良テレビで奈良県下市町村がPRを行う報道イベントを行っていたが、平群町の参加はなかった。平群町はPR動画を作成したことがあるのか。道の駅に人が多く訪れているため、町を紹介する動画を流す企画があれば良いと思う。PR動画を作成し、そのために平群町はこんなまちというのをまとめる必要があるかと思う。

事務局：数年前だが観光拠点でもある信貴山の簡単なPR動画を作成し、道の駅で流してもらっていたことはある。道の駅についても町内で最も人が集まる場所なので活用するよう庁内でも話をしている。まち未来推進室はシティプロモーションについても担当することになるので、映像で町をPRしていくということもしっかり検討したい。

PRという点では、町外にも平群町の魅力を伝えたいという想いで昨年度に町政要覧を一新した。

松名委員：補足になるが、観光ボランティアガイドは、多い時には一日4,000人ほどを対象に案内していた。コロナが収束すれば、また再開できると思っている。活動していると思うのが、町民が豊かな歴史を知らないことであるので、自慢できるようなきっかけを作ってほしい。

また、王寺町のように対外的なイメージアップを継続的に行う必要がある。それらの取り組みが町の活性化に繋がると思う。

事務局：第5次総合計画の検証委員会でも同様の意見を頂戴し、平群町の再発見をコンセプトとしたイベントを小規模ながら行った。継続性については反省点であるので、ご意見として承る。また、信貴山が平群町にあるということを知っていただくのが課題であると考え、郵便局との連携協定及び信貴山のご協力のもと虎柄ポスト設置するなどして、外部に発信している。

山田委員：ボランティア活動の紹介動画作成・発信を行い、2,400名ほどに見ていただいた。佐賀県など遠方からも見ていただいたので、発信力が問われると思う。朝護孫子寺の虎柄ポストについても遠方から来られたということを知っている。発信されているということはとても良いことだと思う。

岡田委員：高齢化問題に伴い、高齢者が動けないあるいはフレイル状態であるということが論議されている。町内には総合スポーツセンターや中央公園、北公園などの立派な施設があり、具体的な利用について議論が必要かと思う。一方で、コロナ禍の中で高齢者の健康を守ることは喫緊の課題であり、現在の取組の紹介をしていただきたいと思っている。

事務局：奈良県下にて、長寿会のいきいき百歳体操が取り組まれている。そういった高齢者の健康に対する取組が行いやすい環境づくりも行政として検討していかなければならないのではないかと考えている。

北川委員：7-2で教育委員会がホームステイの受入れ等を廃止にしているが、三里の関西クリスチャンスクールに通っている外国の方が平群にも多くおられる。そういった住民の意見も聞ければよいと思っているため、教育委員会に検討いただきたい。

小坂委員：北川委員と同意見で、多様性の時代になぜ外国人の受入れ等を縮小していくのか疑問である。

また、施策動向で行政の評価と住民の満足度との間に大きな誤差があることが疑問である。行政の達成度は高評価なのに住民の満足度は低評価というのは、求められることと行っていることに差異があるのではないか。

事務局：おっしゃる通り、公共交通についてコミュニティバス・デマンド交通などの取組を行っているが、使い勝手の面などで住民に不満があることが偏差値に表れているかもしれない。また、空き家についても空き家が増え続けており、対策が不十分であると思われる方が多いことが窺える。商工業についてもバイパス沿いの開発が停止している状況があり、まちづくり会議などでも「もう少し飲食店等が欲しい。」との意見が上がっている。土地利用については、平群駅前の区画整理が完了し、成果を上げられたと考えている一方、不満に思われる住民の方もいらっしゃるということが偏差値に表れていると考察している。

中山会長：公共交通はどの自治体でも満足度が低い傾向にあるが、高齢化が進んでいる中では公共交通をどうするかは重要である。

現計画の積み残し課題等もあると思うが、それらも含めて第6次計画の議論をしていけたらと思う。

⑥平群町まちづくりアンケート調査の結果について（資料6）

事務局：（資料説明）

意見なし

⑦平群町まちづくり会議の実施報告について（資料7）

事務局：（資料説明）

意見なし

## 8. その他

長良委員： 第6次総合計画策定にあたり、皆様の思う喫緊の課題を述べていただいたと思う。4月から年度が替わり、新しい予算で事業が始まる。

現状の打開策として、第6次総合計画は第5次総合計画から大きく変わるのではなく住民の不安をひとつずつ解消していくためにあるかと思う。第6次総合計画について夢のあるものとするか現実を見据えたものにするか、町の考え方が少し見えにくいと思う。町長の考えるビジョンをまず提示していただき、町民の考えを伝えた上で、夢のあるビジョンにつなげていただければと思っている。

山本委員： 自身は第5次総合計画策定時にもPTA代表として検討委員会に参加した。本日、色々な委員からご意見があったが、町議会議員として中間見直しが出来ていなかったことは行政も議会も双方が反省すべきことと捉えている。策定に関わった人にも失礼に当たるかと思うので、反省の上で第6次総合計画の策定に関わっていただきたいと思う。

種坂委員： 持続可能な平群町の経営ということで、税金をどう確保するかが重要になるかと思う。税金が無いと若い人の教育施策も高齢者への福祉施策もできない。

そのためには若い世代、就労される世代に来ていただく必要があり、そのためにどうするかを考えなければならない。

PRについてのご意見が出ていた。PRというと信貴山の話が良く出るが、信貴山PRすることで若い人が来るのだろうか。万遍なく税金を使うのではなく、どこに税金を使うかを考え、集中的な取組を行うことが第6次総合計画において必要かと思う。